

道岳連だより

広報 NO.93
令和4年1月5日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

2022年頭のあいさつ

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



明けましておめでとうございます。

令和2年、3年とコロナの波が世界中に広がり恐怖、混乱をもたらしました。

道岳連も状況に対処して、行事、事業の見直し、中止、延期せざるを得ませんでした。

全道交流登山会は2年連続中止、年一度の山仲間の交流の場が失われたことは残念です。

開催主管をお引き受け頂いた登別山岳会にはご苦労をおかけしました。

平成12年開所から22年間会員の研修や交流会、登山基地として日高町からお借りした旧千栄中学校を使ってきましたが、5.6年前から大幅に利用が減少、管理運営に支障をきたすことになり、廃止としました。会員からは「勿体ない」「何とか継続できないか」という声も届いていますが、高齢化による会員減少、コロナ禍による施設設備について対応が困難と云うことで苦渋の選択です。22年間お借りした日高町、関係者の皆さんにお礼申し上げます。

各委員会、各部門の活動も中止、延期等の変更があるものの最大限の努力を傾注し、運営しています。

コロナ対応について、国、スポーツ庁、道、道スポーツ協会、札幌市等の通知、通達、要請、指示が頻繁なため事務局も大変でした。

理事会、総会もリモート、時には常任理事会もリモートで開きましたが、やはり、対面会議と違い、臨場感の乏しさが難点です。

一年延期で開催されたオリンピック、初めて採用されたクライミング、競技団体としては女子2位、3位、男子4位の成績は喜びですが、コロナ禍による紆余曲折の末での開催は、2月4日からの北京オリンピックと合わせ、今後も問題になりそうです。

またぞろ、変異株オミクロン出現ですが、人類が幾多の困難を乗り越えてきたことは歴史が証明しています。科学を信じ、正しい感染防止策で対処しましょう。

さて、今年は、北海道山岳連盟創立70周年と役員改選となります。記念行事、事業については実行委員会を中心に進行中です。

私が会長に就いて6期12年、長すぎます。令和4年度は新しい体制で、コロナ禍、高齢化、少子化などに対応し、山岳界の未来を展望する年になることを期待します。

これからの冬本番、例年、雪崩遭難、吹雪による道迷い、バックカントリーなどの山岳遭難が多発します。慎重の上にも慎重に「安全」には最大の配慮をもって活動ください。

終わりになりますが、会員各位とご家族の皆さんのご健勝を祈念して年頭のあいさつとします。

小野倫夫会長北海道スポーツ賞受賞

当連盟の小野倫夫会長が、長年にわたる安全登山の普及、多くの指導員の育成に尽力され、北海道における登山技術と資質の向上に寄与するとともに、全国岳人との交流を通じ、北海道の山岳と自然の素晴らしさを紹介し、高体連・北海道山岳連盟の地位向上大きく貢献したことが認められ、令和3年9月8日北海道スポーツ賞の受賞が決定した。

【スポーツ関係団体役員歴】

北海道高体連登山専門部委員長	平成3年～平成9年7月
全国高体連登山部副部長	平成9年8月～平成13年 現在 顧問
北海道山岳連盟常任理事	平成3年5月～平成8年4月
北海道山岳連盟副会長	平成8年5月～平成18年4月
北海道山岳連盟副会長・理事長	平成18年5月～平成22年4月
北海道山岳連盟会長	平成22年5月～現在に至る
日本山岳・スポーツクライミング協会(現)理事	平成18年5月～平成30年4月
北海道山岳遭難対策協議会会長	平成22年5月～現在に至る
国立大雪青少年交流の家施設業務委員	平成30年5月～現在に至る

【表彰・受賞歴】

北海道高体連役員功労賞	平成9年5月
全国高体連役員功労賞	平成9年・平成15年
日本体育協会体育指導員功労賞	平成16年12月
日本山岳・スポーツクライミング協会(現)役員功労賞	平成23年・平成26年10月
環境省自然公園指導員功労賞	平成28年3月

行事・各種事業報告

第1回 理事会 10/24 札幌エルプラザ

道岳連令和3年第1回理事会は、10月24日(日)札幌エルプラザ4階中研修室で、理事・常任理事20名の出席、委任状提出理事33名で対面理事会として開催した。

1号議案 1. 令和3年度前半を振り返ってでは、明田理事長がコロナ禍の中にあって、道岳連行事はリモート会議で総会、理事会を開催するなど、各委員会事業も中止(延期)追い込まれた。一方でコロナ対策に万全を期して粛々と登山活動を継続している加盟団体も見受けられる。今後の道岳連行事に関しては、ホームページの利用やコロナ禍のなか、多数の老若男女が山登りをしている状況下、この層が道岳連に足が向くよう工夫を願いたい旨を訴えた。

東京オリンピックのスポーツクライミング女子のメダル獲得、JMSCAの新体制で会長に丸誠一郎氏が選任されたことを報告し、質疑応答なしで承認された。

2号議案 令和3年度前期事業報告については、各委員会委員長及び担当者から令和3年4月～同年9月末までの事業内容が報告された。この間、コロナ感染症緊急事態宣言等により中止した事業は6事業にのぼった。宣言期間中に実施した事業の適否についての質問があったが、提案通り承認された。

3号議案 令和3年度後期事業予定について、質疑はなく承認。4号議案その他の議題では、8月28日-29日に予定していた全道交流登山登別大会は中止、10月2日のルスツトレランは開催が1週間遅れで、今回からアウトドアフェスティバルが主催。全日登山大会新潟大会、三重国体も中止となった。

次年度は道岳連の役員改選時期になる。また、道岳連設立70周年記念事業実施、10月11日に実行委員会を開催し記念事業は60周年事業を踏襲して行うことを報告、祝賀会は令和4年10月23日(日)ライフオート札幌で開催する。

2026ミラノ冬期オリンピックにおいて山岳スキーが競技種目に追加となったことで、道岳連での対応についての意見交換があり、最後に出席役員・理事からの近況報告や意見・感想などを延べ合い15:50散会した。

道岳連設立70周年記念事業の概要

1952年(昭和27年)年設立の北海道山岳連盟は次年度の2022年に設立70周年を迎える。記念事業を実施するにあたり10月11日に実行委員会を正式に立上げ、委員長に石井副会長を選任した。記念事業の具体的な内容は、今後の実行委員会や常任理事会で詰めの作業が進められるが、現在まで実施がほぼ決定した事業について概要を掲載する。

◇記念式典・祝賀会 令和4年10月23日(日) ホテルライフオート札幌

◇記念誌発行 設立70周年記念誌(編集長 石井副会長)

◇招致・冠事業 全道交流登山会

◇記念登山 海外登山 山の日記念登山会(8/11 山の日)

☞ 記念誌に「1会1山」を掲載。内容は、山の紹介、山にまつわるエピソードなど。

どの山を選定したかを石井副会長に連絡(まだの会は至急連絡を)

原稿⇒A4、1600字、写真込みで1ページ 令・4年3月31日までにワードで玉木事務局長宛に提出。

登攀技術研修会 10/10 赤岩(小樽)

新型コロナ禍で延期していたが日帰りにして開催しました。

シーズンオフといえ赤岩は混雑し、駐車場確保のため我々チームは午前6時には集合するが、すでに10台以上の車がありテントも数張りあった。参加者の早い方は3時に着いて仮眠をとっていたとのこと。スタッフは6時から東チムニーに移動し、トップロープを降ろし研修会の準備にかかる。研修は二組にわけ初心者は用具の説明、ロープの結び、確保技術の指導を受ける。経験者もトップロープに奇声を上げながら攀じ登る。3級ルートは登るが4級ルートとなると苦戦する。やがて初級組もトライするが身のこなしに感心する。懸垂からの登り返しには悪戦苦闘し、なかなかズリ上がらない。仮固定、切り替え、バックアップ、あぶみと連続技が随所に出てくるが、頭で

わかっていても手も足も出ない様子で、3年もかけるときっと自分のものになると思います。

1. 開催日 2021年10月10日(日)
 2. 研修会場 赤岩(小樽)
 3. 参加者 7名+スタッフ5名
 4. 場所 東チムニー
 5. 研修内容
 - 7:30 ガイダンス・結びの基本、確保技術、用具の説明
 - 8:00 トップロープ・リードによる登攀と確保技術、懸垂下降からの自己脱出
- ※新型コロナウイルス感染防止対策について
体調管理シートの提出、確認消毒用アルコール設置、マスクの着用 (報告 明田 通世)



受講者感想

研修会に参加して Y. M

安全で楽しくクライミングを行うために登攀技術研修会に参加してきました。場所は赤岩の東チムニー岩。当日は秋晴れで西に積丹岬、北には遠く暑寒別連峰が見渡せ、さらに積丹ブルーの真っ青な海。最高のロケーション。クライミング日和。そのためクライミングに対する緊張感でドキドキしていた気持ちが少し解れました。また、ここに来るまでの遊歩道に白龍山お堂や石仏があり、不思議に思っていたのですが、ここ赤岩はクライミングの対象として注目される前は、宗教的修行者の修行場として、また古くはアイヌにとっての信仰の地とされてきたと知り、歴史を感じるとともに神聖な気持ちにもなりました。



東チムニーの登攀

研修会ではロープの結びの基本や種類、トップロープでのクライミングや確保などを教わりました。研修会だったため難しいルートにも挑戦したのですが、3分の1位の所であと1cm手が伸びれば、と思うものの体をどのように使ってよいのかわからず、あえなく撃沈！もっと技術を習得しなければと思わせられました。

早朝からロープセットなど準備していただきスタッフの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。有意義な一日をありがとうございました。

夏山リーダー養成講習会 7/23-24 8/8-9
検定会 10/16-17 手稲山山麓他

夏山リーダー養成講習会、検定会を終えて

指導委員会・遭難対策委員会

2018年8月に「夏山リーダー」資格制度の説明会が神奈川県であるので参加して欲しいとの

依頼を受けて出席しました。夏山リーダー制度と講習会の必要性を強く感じながらも、翌年は安全登山指導者研修会の北海道での開催の為実施出来ず、2020年はコロナの感染拡大により実施出来ませんでした。その様な中でも夏山リーダー研修を開催して欲しいとの声を受け、安全ガイドラインを遵守し北海道で第一回目の講習会を開催することになりました。全道から個人会員も含め12名の受講希望者があり、札幌市の手稲山麓で7月23・24日、8月8・9日の4日間の講習、10月16・17日の検定会を開催することが出来ました。初日の座学の会場がコロナ感染拡大防止の為使用出来なくなり、急遽会場の変更を余儀なくされた… そんなスタートでしたが、受講生の皆さんの強い思いと頑張りで検定会まで無事終了することが出来ました。

山岳遭難原因の40%が「道迷い」であることから、読図とナビゲーションに重点を置いたカリキュラムにしました。また運動生理学についても専門性が高いので、外部から専門講師を依頼し内容を深めました。

夏山リーダー養成の目的は安全に登山を楽しむために必要な知識を取得し、自立した登山者を育成することでUIAA(国際山岳連盟)の資格に準拠するように作成されています。その中でもとても奥深く難しい内容となっていますが、受講生の皆さんが真摯に講義を聞き実技を取得していく姿はとても清々しく頼もしく思えました。私達スタッフも受講生の皆さんから刺激を受け、更に勉強しなくてはと痛感させられました。

今回の12名の受講者の皆さんは北海道の夏山リーダーの第一期生となり、安全登山普及のため活躍される事と期待しております。また、これに続き夏山リーダー資格取得を希望する人が増え、一般の登山者にこの制度が浸透することを切に願っています。

指導スタッフ

本堂雄大(専門講師)・加藤陽子(ロビニア)・斎藤邦明(音更)・澤田時人(登別)
小山内芳廣(登別)・田中清子(こぶし)・今野聖二(こぶし)・明田通世(ロビニア)



ナビゲーション



参加者・スタッフ集合写真

受講者感想

夏山登山リーダー(基礎編)講習に参加した感想

Ta.

この度、講習会と検定会が終了しました。参加に当たり、登山歴はあるのですがソロ活動が多く、また十数年来登山をしていなかったため、登山に対する知識は書物やインターネットで得ていました。ようやく山岳会に所属し、少しずつ経験が増えるようになった中で、今回の講習で知識・行動の再確認や新しい事項を丁寧に教わりました。また班編制において、知識の共有や協同作業などを体験できました。ここでいかに自己自身の知識だけでは危ないことを認識しました。世の中には、

私のようにヒヤリ・ハットは経験しても、次は「大丈夫」で登られている方は多いと思います。登山部や登山サークル、山岳会に所属していれば、受け継がれていく事例はあると思いますが、現代では個人で楽しむ活動が増えているため、登山に必要な実践事項が伝わりにくいと思います。このような内容を広く伝えられるようにする、夏山リーダーは必要になります。これからも「山を愛する」・「安心・安全に取り組む知識を学ぶ」ことを楽しみに登山していきたいと思います。



ビバーク演習

自然保護指導員の集い 10/16-17 昭和新山・洞爺湖ほか

「令和3年度自然保護指導員の研修・集い」は、2021年10月16日(土)～17日(日)にかけて、昭和新山・洞爺湖・有珠山噴火遺構で行いました。

16日研修会場 昭和新山及び三松正夫記念館

17日研修内容 洞爺湖温泉 特定外来生物「ウチダザリガニ」駆除活動

参加者 自然保護指導員 12名 道岳連会員 18名 一般参加 1名 講師 2名 計 33名



昭和新山学習登山

昭和新山は世界で類を見ない個人所有の活火山で、特別天然記念物であり、学習登山においてはジオパーク友の会火山マイスターガイドの三松靖志、菅野三知博、佐々木美穂子氏らに講師をお願いしました。また、洞爺湖では淡水湖におけるウチダザリガニ(特定外来種)駆除の現状、問題点をUVクリーンレイク洞爺湖、室田欣弘氏らの講習を受けました。さらに近年再爆発を懸念される有珠山の噴火遺構跡の学習などを行いました。

昭和新山は世界で類を見ない個人所有の活火山で、特別天然記念物であり、学習登山においてはジオパーク友の会火山マイスターガイドの三松靖志、菅野三知博、佐々木美穂子氏らに講師をお願いしました。また、洞爺湖では淡水湖におけるウチダザリガニ(特定外来種)駆除の現状、問題点をUVクリーンレイク洞爺湖、室田欣弘氏らの講習を受けました。さらに近年再爆発を懸念される有珠山の噴火遺構跡の学習などを行いました。

これらは北海道において、自然科学学習の最高の素材であります。今研修会開催におきましては、室蘭山岳連盟の後援をいただき、無事開催することができました。参加者総数は33名で、今回に限り昭和新山学習登山では日帰り登山を行いました。

10月16日 … 12:30に昭和新山駐車場に集合し、現地で開会式を行い13:00から昭和新山学習登山を始めました。降雨が想定されたため、右廻りの往復登山としました。途中の第四火口などで地熱測定を行い大体90℃程あり、亀岩では120℃ありました。地熱は年々低下傾向であります。頂上(最高点)は手前に亀裂が発生したため、前衛峰で引き返しました。

下山後、三松正夫記念館で館長の三松三朗氏から講義、説明をして頂きました。その後伊達温泉

に移動し、指導員総会、研修会を行いました。なかなか核心を突く話もありましたが、その後の交流会は和気藹々と過ごしました。

10月17日 … 8:30に伊達温泉を出て洞爺湖へ向い、UVクリーンレイク洞爺湖、室田欣弘氏と洞爺湖生物多様性保全協議会(主管官庁 洞爺湖町)の方々のウチダザリガニ捕獲を見学し、個体測定の手伝いをしました。その後、場所を洞爺湖支所会議室へ移動して、スライドでウチダザリガニの問題の学習を行いました。その中で、一晩で水草が全捕食されている映像には恐怖を感じました。参加者(70台男性)の中に子どもの頃から洞爺湖で釣りをしているが、最近魚が釣れなくなると云っていたことが耳に残りました。

昼食後、金比羅山噴火遺構の学習見学を室蘭岳友会辻野健治が案内を行いました。先の噴火から20年経ち再噴火が懸念されています。当時の被災状況を学習して火山との共存を図るため、登山者として知るべき知識を学習しました。



捕獲ウチダザリガニの雌雄判別や重量計測



有珠山噴火遺構(泥流入町民浴場)

今回の研修会・集いは、火山学、生物学、登山中の防災と、我々が北海道で登山をするに当たり、避けて通れない基礎知識の習得にとっても最適な場所でしたが、参加者数は振るいませんでした。皆さまもご承知と思いますが、7年前(2014.9.27)御嶽山が噴火いたしました。その時丁度当委員会の研修を行っておりました。その噴火は私としてはとても他人事として受け取れませんでした。なぜなら北海道の多くの山が活火山であるにも係わらず、我々がいかに火山について無知であるかを思い知らされたからです。

その後私は、昭和新山という素晴らしい教材で勉強し、地元のネットワークを構築して、今回やっと昭和新山で火山についての学習会を開催することができました。ただ、これらの分野は多くの登山者の意識が低いということも勉強いたしました。それはインターネットの世界で頻繁に閲覧されない分野のため、多くの方は興味を示さずネット情報に振り回されていることも要因と思われます。反省点、改善点はいっぱいあります。それを糧に次回につなげたいと考えております。

報告 自然保護委員会 常任委員 辻野 健治 (室蘭山岳連盟 室蘭岳友会)

受講者感想

岩見沢山岳連盟

栗林 登(こびし山岳会)

今回の研修会では貴重な体験をさせて頂きました。

昭和新山は三松さんからの説明を聞き、成り立ちから現在までの経過を知ることができ、大変勉強になりました。

有珠山遺構トレッキングは、噴火による自然災害の甚大さを思い知らされました。最近噴火した阿蘇山噴火報道に際しさらに予知、防災の重要性を再認識しました。

洞爺湖における特定外来生物「ウチダザリガニ」がこれほど大量発生している現実を知りません

でした。また、昭和新山の成り立ち・周辺の環境・被害状況、ウチダザリガニ駆除に長期間かかわられている方々の尽力・活動状況は、今回参加させて頂かなければ知り得ないことでした。

今回の自然保護研修を通じ、自然が引き起こす人間社会への影響と、人間が引き起こす外来種による自然環境への影響を学びました。

これからは、さらに自然環境に注視し、もう少し自然保護活動に力を入れていきたいと思いました。このような研修会を準備、開催して頂きありがとうございました。



三松正夫記念館

日本山岳・スポーツライミング協会 自然保護指導員会議 … 報告・協議



16日(土)の昭和新山研修終了後、伊達温泉へ移動し自然保護指導員会議を行いました。

今年の活動報告として、美瑛富士トイレブース点検の報告に始まり、2022年度の研修開催場所、期日、参加料についての検討や参加人数増加に向けた勧誘方法など、多くの意見を頂き有意義な会議となりました。

昭和新山を、洞爺湖を守るために個人の情熱を注がれていることに胸を熱くし、そして参加頂きました皆さまのご協力により無事今回の研修を終えることができました。ありがとうございました。

自然保護委員会 委員長 増子 麗子

今後の諸行事

氷壁技術研修会 (海外委員会・指導委員会)

令和4年1月8日(土)～9日(日) 層雲峡大函・錦糸の滝周辺

層雲峡のホテル

山岳スキー指導員研修会&初心者及び初・中級山スキーヤー研修

(指導委員会・山岳スキー運営委員会)

令和4年1月22日(土)~23日(日) ほろたちスキー場・ほろたち山荘

第10回リードユース日本選手権派遣選手選考会・第8回ボルダリングユース日本選手権派遣選手選考会 (競技委員会)

リード競技 令和4年1月16日(日) 美唄市体育センター

ボルダリング競技 令和4年1月30日(日) 同上

冬山講習会 Part1 (普及委員会)

令和4年2月5日(土)~6日(日) ニセコアンヌプリ・五色温泉旅館

2021年度JMSCAスポーツクライミング部ブロック別研修会(JMSCA)

令和4年2月26日(土) かでる2・7

令和4年2月27日(日) 札幌エルプラザ

第2回理事会

令和4年4月17日(日)予定 会場未定

★詳細は道岳連HP又は加盟団体配布の開催要項を確認ください。

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.93 令和4年1月5日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市白石区中央1条4丁目3-72-107

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄